

東京大学大学院医学系研究科

寄附講座

「在宅医療学講座」

寄附金趣意書

東京大学大学院医学系研究科 加齢医学教授

東京大学医学部附属病院 老年病科科長

秋下雅弘

ご寄附のお願い

謹啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

都市部を中心に外来通院が困難な要介護高齢者が急増する日本において、地域包括ケアシステムの構築は国家的課題です。この地域包括ケアシステムにおいて不可欠な要素である在宅医療に対応できる優れた医療人材の養成が急がれます。また高齢者だけではなく、がん疾患、重症心不全、神経難病、精神疾患、小児疾患の患者に対しても、住み慣れた地域での生活を支える在宅医療が求められています。しかし在宅医療に従事する医師は限られており、在宅医療に取り組む質の高い医師の養成が必要です。また、在宅医療に関する研究は極めて少なく、積極的に研究を推進し、在宅医療に関する知見の集積を通じた学問体系化が望まれます。

東京大学医学部では、平成 25 年度「文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業」での採択に基づき、医学部在宅医療学拠点を設置し、平成 29 年度まで事業に取り組みました。同事業により医学部学生、大学院生、臨床研修医、専門研修医、開業医に対する教育プログラム・コースを確立しました。同時に在宅医療の症例登録を進め、在宅医療の症例レジストリシステム構築を目指すなど、在宅医療の研究も推進しました。日本在宅医療連合学会のなかで本学が中心的な役割を果たし、在宅医療分野の研究を推進することが強く期待されています。また、アジア地域の諸国も日本の取り組みを注目して見守っています。日本で質の高い在宅医療の研究、教育、診療を推進し、それらの成果を海外に発信することが待たれています。

平成 29 年度で終了しました「文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業」を引き継ぎ、平成 30 年度より、東京大学大学院医学系研究科に「在宅医療学講座」を新設し、国家的課題である在宅医療の研究、教育に取り組み、全国の中心として在宅医療学を牽引しています。在宅医療学講座の第 1 期の活動は令和 4 年度で終了いたしますが、令和 5 年度以降も引き続き在宅医療に関する教育活動を継続し、さらなる研究の推進を図りたいと存じます。東京大学大学院医学系研究科 在宅医療学講座の活動に対しましてご理解を賜り、ご寄附をお寄せいただけましたら幸甚に存じます。

末筆にて恐れ入りますが、皆様のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます

謹白

令和 4 年 4 月吉日
東京大学大学院医学系研究科 加齢医学教授
東京大学医学部附属病院 老年病科科長
秋下雅弘

東京大学大学院医学系研究科「在宅医療学講座」

寄附講座の概要

1. 設置期間：令和5年4月1日から令和10年3月31日まで（5年間）
2. 大学部局名：東京大学大学院医学系研究科
3. 寄附講座の名称：（和文）在宅医療学講座
（英文）Department of Home Care Medicine
4. 寄附金額：総額 250,000,000円（5年間）
5. 担当教員：特任教授1名、特任准教授1名、特任講師1名、特任助教1名

6. 研究の目的：

都市部を中心に外来通院が困難な高齢者が急増する日本において、地域包括ケアシステムの構築は国家的課題です。この地域包括ケアシステムにおいて不可欠な要素である在宅医療に関する研究は乏しい状況にあります。今後、在宅医療に関する研究を積極的に推進し、全国の研究を牽引しながら学問体系化を図り、教育、普及していくことが求められております。

平成25年度より東京大学医学部在宅医療学拠点は、「文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業」に取り組んで参りましたが、同事業は平成29年度で終了いたしました。そのため、本寄附講座においてこれまで得られた教育、研究の成果を引き継ぎ、更に発展的に取り組んでおります。

本寄附講座では、これまで良好な関係を構築してきた柏市医師会など地域の医療機関に加え、厚生労働省が設置している全国在宅医療会議、ならびにその主力メンバーである日本在宅ケアアライアンスのアカデミックグループ、日本在宅医療連合学会と密に連携しながら在宅医療のエビデンスを構築し、在宅医療の学問体系化を図ります。

7. 寄附講座の教育研究領域の概要：

「設置理由」

平成25年度～平成29年度文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業での採択に基づき、医学部在宅医療学拠点を設置し、在宅医療の卒前・卒後教育、在宅医療に関する研究に取り組みました。

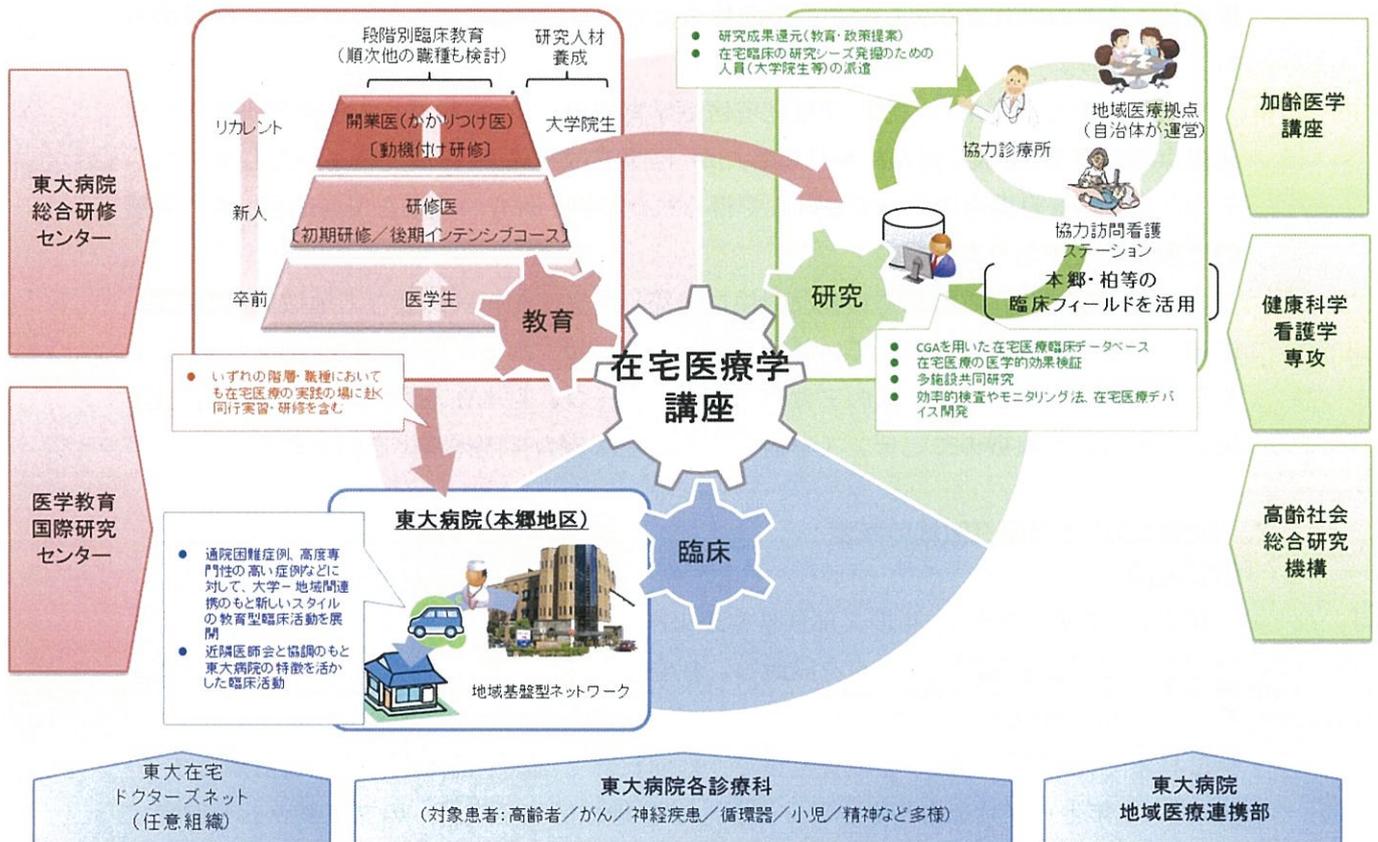
これまで在宅医療に関する教育として、卒前教育では医学部医学科学生を対象とするM4期（6年生）クリニカル・クラークシップ「地域医療学実習」のプログラムを開発するとともに教育を担当し、平成28年度より必修化されています。卒後教育として臨床研修医を対象とする「卒後臨床研修プログラム 在宅医療重点オプション」、専門研修

医を対象とする「専門研修プログラム 在宅医療インテンシブコース」、大学院生を対象とする「在宅医療の研究人材養成コース」の研修プログラム作りならびに指導を行ってきました。さらに開業医を始めとする地域医療に従事している医師を対象に「かかりつけ医の在宅医療参入を促す多職種連携研修会」の開催を支援しています。また、全国の都道府県行政の在宅医療・介護連携事業担当者を対象に全国在宅医療・介護連携研修フォーラムを開催し、地域単位の在宅医療・介護連携の推進にも努めております。

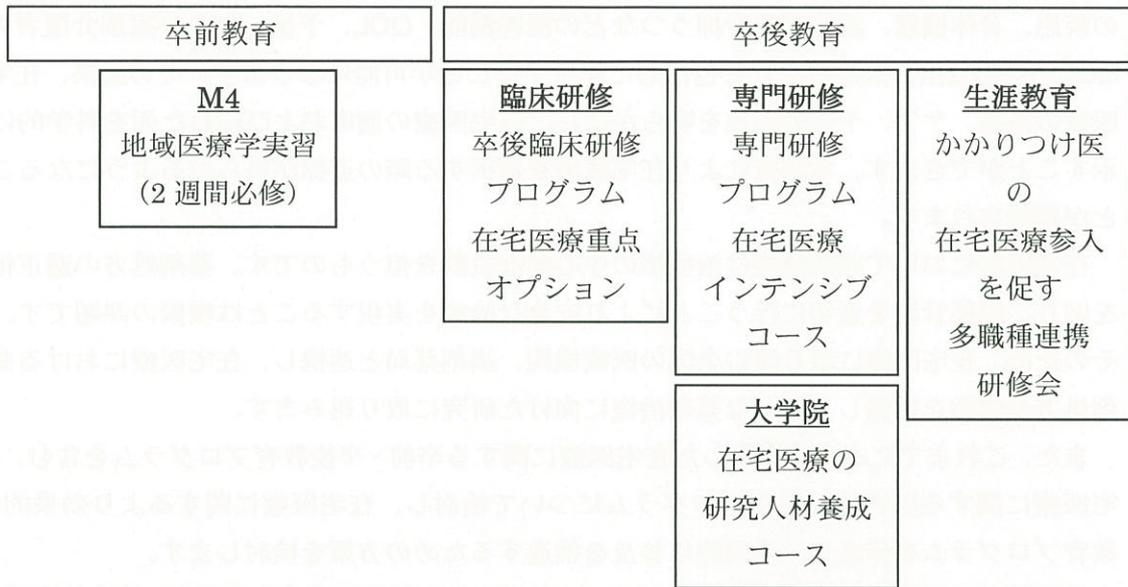
研究面では、在宅医療に取り組む診療所の医師とともに在宅医療の症例登録、追跡調査を実施して、在宅医療の症例レジストリシステムの構築を目指しています。また、全国の医療介護レセプトデータを入手して、在宅医療の社会的意義を検討するためのレセプト解析を実施しています。「地域医療学実習」を始めとする在宅医療に関する教育効果の検証、在宅医療における薬物療法に関する研究にも取り組んでいます。今後は厚生労働省が設置する全国在宅医療会議の主力を担う日本在宅ケアアライアンスのアカデミックグループ、ならびに日本在宅医療連合学会と密に連携し、学術研究・教育を推進することが期待されています。

東京大学大学院医学系研究科 在宅医療学講座の第1期の活動は令和4年度で終了いたしますが、令和5年度以降も引き続き在宅医療に関する教育活動を継続し、さらなる研究の推進を図りたいと存じます。

「教育研究内容」



在宅医療に関する教育プログラム・コース



これまで構築してきた在宅医療に関する卒前・卒後教育は寄附講座が担当しています。医学部医学科 M4 期（6 年生）クリニカル・クラークシップ「地域医療学実習」は平成 28 年度から必修化されています。令和 5 年度以降も引き続き実習受け入れ施設を確保し、地域医療学実習を指導します。臨床研修医を対象とする「卒後臨床研修プログラム 在宅医療重点オプション」、専門研修医を対象とする「専門研修プログラム 在宅医療インテンシブコース」についても、研修受け入れ施設を確保し、研修の指導を行います。今後、在宅医療に関する研究をより一層推進するため、大学院生を対象とする「在宅医療の研究人材養成コース」の受け入れ拡充を目指します。開業医を中心とする地域医療に従事している医師を対象に「かかりつけ医の在宅医療参入を促す多職種連携研修会」の開催支援を継続し、在宅医療の普及を図ります。

日本では高齢化の急速な進行に伴い、これまで以上に在宅医療の普及が求められています。ところで、在宅医療の現場では様々な課題があり、それらの課題を明確にし、解決していく必要があります。そのため、在宅医療の現状と課題を調査し、患者・家族の QOL、満足度、在宅医療で行われていること、現場で困っていること、医療、介護、制度それぞれの課題を整理し、これらを解決するための研究に取り組みます。

また在宅医療を提供する体制の拡充とともに、在宅医療の質を評価し向上させる必要があります。そのため、在宅医療サービスの質の評価法を検討し、評価する研究を行います。

今日、在宅医療が推進されているにもかかわらず、在宅医療に関するエビデンスは乏しい現状にあります。そのため、厚生労働省が設置する全国在宅医療会議の主力を担う日本在宅ケアアライアンスのアカデミックグループ、ならびに日本在宅医療連合学会と密に連携して学術研究を推進することにより、日本の在宅医療のエビデンス構築を図ります。これまで地域の診療所に所属する医師とともに行ってきた在宅医療の症例登録、追跡調査を発展させる形で全国的な在宅医療症例レジストリシステムの構築を目指しています。症例

レジストリシステムで得られたデータベースを用いることにより、在宅医療を受ける患者の疾患、身体機能、認知機能や抑うつなどの精神機能、QOL、予後、および家族介護者のQOL、介護負担、医療費などを包括的に解析することが可能になります。その結果、在宅医療の治療、ケア、予後の実態を明らかにし、在宅医療の適応および優れた面を科学的に示すことができます。本研究により在宅医療を選択する際の道標が得られるようになることが期待されます。

在宅医療において薬剤治療は治療法の中心的な役割を担うものです。薬剤処方 of 適正化を図り、服薬管理を適切に行うことにより安全な治療を実現することは喫緊の課題です。そのため、在宅医療に取り組む全国の医療機関、調剤薬局と連携し、在宅医療における薬剤処方の実態を把握し、適切な薬剤治療に向けた研究に取り組みます。

また、これまでに本学で構築した在宅医療に関する卒前・卒後教育プログラムを含む、在宅医療に関する国内外の教育プログラムについて検討し、在宅医療に関するより効果的な教育プログラムを作成し、全国的に普及を推進するための方策を検討します。

引き続き外部資金の獲得に努めながら、以上のような在宅医療の臨床課題、社会的課題に関する研究に取り組み、この分野の学問体系化を目指します。

「期待される成果」

地域包括ケアシステムにおいて不可欠な要素である在宅医療の学術的基盤を構築することにより、在宅医療の標準化、普及の促進が期待されます。また、従来からの疾患治療に加え、「生活を支えるための医療」としての在宅医療が普及することにより、新たな診断、治療、ケア学の体系を確立することが望まれます。しかし、在宅医療の研究は乏しいのが現状です。高い医療水準を達成し、医療・介護保険制度が整備されており、急速に高齢化が進行している日本において「治し支える医療」としての在宅医療に関する研究を推進し、アジアを中心とする海外に対して広く発信することにより、在宅医療分野の学術研究を国際的にリードします。その結果、国内外での在宅医療の普及に寄与することが期待されます。

「その他」

日本在宅医療連合学会、日本老年医学会、国立長寿医療研究センターなどの関係する学術団体、研究機関と密に連携を図りながら、在宅医療のガイドライン作成、ならびに在宅医療の学術書としての標準的テキスト作成、在宅医療の研究を推進します。このことにより学術面から日本の在宅医療の発展に寄与することを目指します。また国内のみならず、特にアジア地域を中心とする海外の医師、研究者との連携を一層深めリードすることにより、国際的な立場から、住み慣れた地域で生活を支えるための在宅医療の研究、教育、普及に努めます。

8. 在宅医療の研究に関する工程表

	研究
R5 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 在宅医療の症例レジストリシステム構築 <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度までに得られた知見を学会発表、論文発表 ・研究協力施設を増やして前向きデータ収集を継続 ● 在宅医療における適正な薬剤治療 <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握および課題の抽出 ● 在宅医療の課題に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療の現状と課題に関する調査 患者・家族の QOL、満足度 在宅医療で行われていること、現場で困っていること 医療、介護、制度それぞれの課題 ・療養の場ごとの比較 ● 在宅医療の質の評価と向上 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療サービスの質の評価法に関する調査研究 ● 在宅医療の教育プログラムの標準化 <ul style="list-style-type: none"> ・全国の医学部における在宅医療に関する卒前教育の現状把握 (教育プログラムなど) ・全国の研修施設における在宅医療に関する卒後教育の現状把握 (教育プログラムなど) ● 在宅医療のガイドとなるテキスト作成 <ul style="list-style-type: none"> ・日本在宅医療連合学会、日本老年医学会、国立長寿医療研究センターと 共同で在宅医療のガイドとなるテキスト作成
R6 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 在宅医療の症例レジストリシステム構築 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の結果を学会発表、論文発表 ・研究協力施設を増やして前向きデータ収集を継続 ● 在宅医療における適正な薬剤治療 <ul style="list-style-type: none"> ・実態の調査結果を検討し論文化、新たな研究課題を抽出 ● 在宅医療の課題に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療の現状調査の結果をふまえた研究課題の設定 ・療養の場ごとの比較 ● 在宅医療の質の評価と向上 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療サービスの質の評価法の作成 ● 在宅医療の教育プログラムの標準化 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療に関する卒前教育のモデルに関する検討 ・在宅医療に関する卒後教育のモデルに関する検討
R7 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 在宅医療の症例レジストリシステム構築 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の結果を学会発表、論文発表 ・前向きデータ収集を継続 ● 在宅医療における適正な薬剤治療 <ul style="list-style-type: none"> ・抽出された研究課題に対し研究を実施

	<ul style="list-style-type: none"> ● 在宅医療の課題に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療の現状調査の結果をふまえた研究への取り組み ・療養の場ごとの比較 ● 在宅医療の質の評価と向上 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療サービスの質の評価研究 ● 在宅医療の教育プログラムの標準化 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療に関する卒前教育のモデルと大学・地域特性に関する検討 ・在宅医療に関する卒後教育のモデルと研修施設・地域特性に関する検討
R8 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 在宅医療の症例レジストリシステム構築 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の結果を学会発表、論文発表 ・前向きデータ収集を継続 ● 在宅医療における適正な薬剤治療 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の結果を論文化 ● 在宅医療の課題に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療の現状調査の結果をふまえた研究への取り組み ・療養の場ごとに比較した結果の論文化 ● 在宅医療の質の評価と向上 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療サービスの質の評価研究 ● 在宅医療の教育プログラムの標準化 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療に関する卒前・卒後教育のあり方に関する提案
R9 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 在宅医療の症例レジストリシステム構築 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の結果を学会発表、論文発表 ・前向きデータ収集を継続 ● 在宅医療における薬剤治療 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療における適切な薬剤治療に関する提案を実施 ● 在宅医療の課題に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療の現状調査の結果をふまえた研究結果の論文化 ● 在宅医療の質の評価と向上 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療サービスの質の評価研究結果の論文化 ● 在宅医療の教育プログラムの標準化 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療に関する卒前・卒後教育の推進

リサーチカンファレンス・公開セミナーの開催

- 定期的にリサーチカンファレンス・公開セミナーを開催し、在宅医療に関する研究を学際的に推進し、在宅医療に関する研究者の養成を目指します

在宅医療の教育に関する事項

- 地域医療学実習（M4（6年生）医学部学生）
 - ・必修としての実習を継続
 - ・実習協力施設の確保、実習の指導
 - ・実習プログラムの改善（専門医療や基礎研究と在宅医療の関連性の教育を含む）
 - ・実習の教材開発
- 卒後臨床研修プログラム－在宅医療重点オプション－（臨床研修医）
 - ・臨床研修の受け入れ施設の確保、研修の指導
- 専門研修プログラム－在宅医療インテンシブコース－（専門研修医）
 - ・新専門医制度への対応
- 在宅医療の研究人材養成コース（大学院生）
 - ・大学院生の受け入れを継続、研究指導
- かかりつけ医の在宅医療参入を促す多職種連携研修会の開催支援（開業医）
 - ・開催支援と効果的な研修プログラムに関する検討
 - ・全国に在宅医療を推進するための効果的な方法を検討し実践

9. 協 力 講 座：東京大学大学院医学系研究科 生殖発達加齢医学専攻 加齢医学
東京大学医学部附属病院 老年病科

10. お 問 合 せ 先：東京大学大学院医学系研究科 在宅医療学講座 山中 崇
〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学医学部附属病院 中央診療棟 2 8 階
Tel & Fax : 03-5800-9542
E-mail : yamanaka.takashi@mail.u-tokyo.ac.jp
HP : <http://chcm.umin.jp/>

11. 寄附金の使途

種 目	年 度	R5年4月1日	R6年4月1日	R7年4月1日	R8年4月1日	R9年4月1日
	～	～	～	～	～	～
		R6年3月31日	R7年3月31日	R8年3月31日	R9年3月31日	R10年3月31日
人件費						
特任教授		9,600,000	9,600,000	9,600,000	9,600,000	9,600,000
特任准教授		8,400,000	8,400,000	8,400,000	8,400,000	8,400,000
特任講師		7,200,000	7,200,000	7,200,000	7,200,000	7,200,000
特任助教		6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000
(小 計)		31,200,000	31,200,000	31,200,000	31,200,000	31,200,000
研究費						
消耗品費		50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
図書購入費		50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
印刷製本費		50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
光熱水費		150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
通信運搬費		200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
雑役務費		2,950,000	2,950,000	2,950,000	2,950,000	2,950,000
居室借上費		5,400,000	5,400,000	5,400,000	5,400,000	5,400,000
その他(外注費)		100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
(会議費)		100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
研究支援経費		5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
寄附講座管理費		4,500,000	4,500,000	4,500,000	4,500,000	4,500,000
(小 計)		18,550,000	18,550,000	18,550,000	18,550,000	18,550,000
旅 費						
国際研究						
集会等		200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
国内研究						
集会等		50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
(小 計)		250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
合 計		50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000

12. 寄附方法

一括納入又は分割納入

13. 東京大学大学院医学系研究科在宅医療学講座の業績 (平成 30 年 4 月～)

英文論文

1. Yamaguchi Y, Saif-Ur-Rahman KM, Nomura M, Ohta H, Hirakawa Y, Yamanaka T, Hirahara S, Miura H. Opioid prescription method for breathlessness due to non-cancer chronic respiratory diseases: A systematic review. *Int J Environ Res Public Health* 2022;19:4907.
2. Kidana K, Mizuki M, Matsui T, Akishita M, Yamanaka T. Effectiveness of a servo-assistive robotic rollator in community-dwelling older adults. *Geriatr. Gerontol. Int.* 2022;22:177-178.
3. Yamanaka T, Kidana K, Mizuki M, Akishita M. Comparison of regular home visits received by older male and female patients from physicians. *Geriatr Gerontol Int* 2021;21:1148-1150.
4. Son BK, Akishita M, Yamanaka T, Toyoshima K, Tanaka T, Suthutvoravut U, Iijima K. Association between inflammatory potential of the diet and sarcopenia/its components in community-dwelling older Japanese men. *Arch Gerontol Geriatr.* 2021 Nov-Dec;97:104481. doi: 10.1016/j.archger.2021.104481. Epub 2021 Jul 10. PMID: 34298260.
5. Kikuchi K, Tatebe T, Sudo Y, Yokoyama M, Kidana K, Chiu YW, Takatori S, Arita M, Hori Y, Tomita T. GPR120 signaling controls amyloid- β degrading activity of matrix metalloproteinases. *Journal of Neuroscience* 2021;41(28):6173-6185.
6. Yao N, Mutter JB, Berry JD, Yamanaka T, Mohess DT, Cornwell T. In Traditional Medicare, Modest Growth In The Home Care Workforce Largely Driven By Nurse Practitioners. *Health Affairs* 2021;40(3):478-486.
7. Tsuchiya-Ito R, Kusumoto N, Maruyama-Sakurai K, Tamai A, Yokoyama H, Watanabe A, Fujiwara T, Yamanaka T. Determinants of the Implementation of Home Evaluations among Patients with Fall-Related Fractures at a Convalescent Rehabilitation Ward in Tokyo: A Cross-Sectional Study. *Journal of Aging and Environment* 2020 doi:10.1080/26892618.2020.1859036.
8. Hirakawa Y, Hirahara S, Yamaguchi Y, Yamanaka T, Arai H, Miura H. Improving the quality of community primary palliative care in COPD: A qualitative study of health-care providers. *Home Health Care Services. Quarterly* 2020 doi: 10.1080/01621424.2020.1845272.
9. Pazan F, Gercke Y, Weiss C, Wehling M, Akazawa H, Kojima T, Kumaki R, Akishita M, Takeya Y, Ohno Y, Yamanaka T, Kozaki K, Suzuki, Mizukami K, Mizokami F, Ikeda Y, Shimizu A. The JAPAN-FORTA (Fit FOR The Aged) list: Consensus validation of a clinical tool to improve drug therapy in older adults. *Archives of Gerontology and Geriatrics* 2020;91:104217.
10. Noguchi-Watanabe M, Maruyama-Sakurai K, Yamamoto-Mitani N, Matsumoto Y,

Yoshie S, Iijima K, Yamanaka T, Akishita M. Community-based program promotes interprofessional collaboration among home healthcare professionals: A non-randomized controlled study. *Geriatr Gerontol Int*. 2019;19(7):660-666.

11. Kidana, K, Ishii, S, Osawa, I, Yoneda A, Yamaguchi K, Yamaguchi Y, Tsuji K, Akishita M, Yamanaka T. Medication prescription in older people receiving home medical care services. *Geriatr. Gerontol. Int*. 2019;19:1292–1293.
12. Yamanaka T, Hirota Y, Noguchi-Watanabe M, Tamai A, Eto M, Iijima K, Akishita M. Changes in attitude of medical students toward home care during a required 2-week home care clinical clerkship program. *Geriatr Gerontol Int*. 2018;18(4):655-656.

和文論文

1. 平原佐斗司、山口泰弘、山中崇、平川仁尚、三浦久幸. 末期認知症高齢者の肺炎に対する抗菌薬の予後の改善と苦痛緩和の効果に関する系統的レビュー. *日本在宅医療連合学会誌* 2022;3(1):60-67.
2. 平原佐斗司、山口泰弘、山中 崇、平川仁尚、三浦久幸. 末期認知症高齢者の肺炎の苦痛に関する系統的レビュー. *日老医誌* 2021;58(4):610-616.
3. 山中 崇. 【在宅医療への臨床検査の関わり～現状を知り考える～】在宅医療の現状と臨床検査への期待. *医療と検査機器・試薬* 2021;44(4):310-314.
4. 山中 崇、小谷和彦. 地域医療の動向 第3回 地域医療学実習における在宅医療. *医療と検査機器・試薬* 2021;44(3):247-253.
5. 木棚 究、山中 崇. 【非がん疾患のエンドオブライフ・ケア-ガイドラインを踏まえて-】臨床に役立つ Q&A 在宅医療における呼吸不全への対応について教えてください. *Geriatric Medicine* 2021;59(6):597-600.
6. 山中 崇. 【これからの高齢者医療】高齢者の在宅医療. *Precision Medicine* 2021;4(5):423-426.
7. 山中 崇. 【私の治療 拡大版-在宅医療】ガイドラインの実践応用. *日本医事新報* 2021;5063:76-77.
8. 木棚 究、山中 崇 【特集 新興再興感染症の脅威下における健康長寿先進国としての挑戦】地域包括ケアシステム・地域共生社会構築と在宅医療の現状と遠望. *糖尿病・内分泌代謝科* 2021;52(2):130-136.
9. 水木麻衣子. がん患者さんの在宅移行での困りごと. *がんナーシング* 2021;11(6):40-42.
10. 木棚 究、山中 崇 【在宅診療と地域医療 在宅診療の実際と可能性】この症例から何を学ぶか 在宅医療サービスを利用して再入院が回避できた心不全高齢者の事例. *Medical Practice* 2021;38(1):132-136.

11. 木棚 究、山中 崇. 「新・老年病専門医」研修カリキュラムミニレクチャー 地域包括ケア・在宅医療の実践/マネジメント 在宅医療を行っている患者の生活介護状況の評価、多職種との連携による診療実践. *Geriatric Medicine* 2021;59(2):209-214.
12. 松井敏史、須藤珠水、永田あかね、山中 崇、木棚 究、水木麻衣子、長島文夫、前野聡子、佐々木エリ、池村 健、斐 東海、武久敬洋. 要介護高齢者のロボットリハビリテーション. *老年内科* 2021;3(2):191-204.
13. 山中 崇 【エンドオブライフ】在宅医療におけるエンドオブライフケア. *老年内科* 2020;2(5):526-531.
14. 山中 崇 特集 新しい老年病専門医制度について：老年病専門医が持つべき能力とは. 地域包括ケア・在宅医療の実践/マネジメント. *老年内科* 2020;2(3):316-321.
15. 山中 崇 特集 在宅医療 2020 在宅医療の教育と研究—在宅医療のエビデンス構築と普及のために. *医学のあゆみ* 2020;275(2):185-190.
16. 上道文昭、柴田綾子、小谷和彦、諏訪部章、康 東天、小池由佳子、坂本秀夫、谷直人、深澤恵治、藤巻慎一、三村邦裕、山中 崇、横田浩充 パニック値を巡る諸問題と日本臨床検査医学会からの提言 パニック値を巡る諸問題と日本臨床検査医学会からの提言・全国アンケート調査結果に基づくパニック値運用の実態. *臨床病理* 2020;68(6):558-570.
17. 木棚究：在宅医療を考える—高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン 2019 を踏まえて—神経変性疾患患者(認知症を除く)に対する在宅サービスと在宅人工呼吸療法. *Geriatric Medicine* 2019;57(10):959-962.
18. 山中崇：在宅医療を考える—高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン 2019 を踏まえて—慢性心不全患者に対する在宅サービス. *Geriatric Medicine* 2019;57(10):963-966.
19. 木棚究：高齢者の患者学 認知症の症状と予防法. *バイオフィリア* 2019;30:9-16.
20. 山中崇：高齢者の患者学 その 2 在宅医療—自宅が診察室. *バイオフィリア* 2019;31:46-52.
21. 玉井杏奈、大西弘高、野口麻衣子、土屋瑠見子、弘田義人、山中 崇、飯島勝矢：地域医療学実習における多職種模擬カンファレンスカリキュラムの開発とその改変プロセス、医療職の能力開発 2018;6(1):31-42.
22. 山中 崇、小谷和彦：在宅臨床検査と深部静脈血栓症、臨床検査 2018;62(11):1535-1539.
23. 山中 崇：(在宅医療と腎泌尿器疾患) 高齢者の診かた 非がん患者の緩和ケアと看取り、腎臓内科・泌尿器科 2018;8(1):44-48.
24. 山中 崇：(高齢者医療ハンドブック-高齢者医療におけるダイバーシティへの対応) (第 XI 章) 高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア 在宅医療の有用性のエビデンス、内科 2018;121(4):1031-1034.
25. 山中 崇：(老年医学(上)—基礎・臨床研究の最新動向—) 高齢者の在宅医療 在宅医療の発展に向けた研究と教育、日本臨床 2018;76(増刊 5) 老年医学(上):486-

書籍

1. 山中 崇 老人性皮膚搔痒症（老人性乾皮症）；生活機能からみた 老年看護過程 第4版：＋病態・生活機能関連図，215-217，2020 医学書院（東京）.
2. 山中 崇 褥瘡；生活機能からみた 老年看護過程 第4版：＋病態・生活機能関連図，229-237，2020 医学書院（東京）.
3. 山中崇：高齢者の在宅医療，高齢者を取りまく環境；標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野，シリーズ監修 奈良勲，鎌倉矩子，編集 大内尉義，374-378，2020，医学書院（東京）.
4. 木棚究：認知症の症状と予防法；高齢者の患者学“治す医療”から“治し支える医療”へ，秋下雅弘監修，19-32，2020，アドスリー（東京）.
5. 山中崇：在宅医療－自宅が診察室；高齢者の患者学“治す医療”から“治し支える医療”へ，秋下雅弘監修，107-121，2020，アドスリー（東京）.
6. 山中崇：高齢者の在宅医療；改訂版健康長寿診療ハンドブック－実地医家のための老年医学のエッセンス，日本老年医学会編集，171-175，2019，メジカルビュー社（東京）.
7. 山中 崇：第4章 在宅医療における臨床検査の活用 4.4 深部静脈血栓症管理、在宅医療における臨床検査医学 2019:100-105、臨床検査振興協議会監修、小谷和彦編集、じほう（東京）.

国際学会

1. Yamanaka T, Mizuki M, Kidana K. Characteristics of older home care patients with chronic heart failure. American Geriatrics Society 2022 Annual Scientific Meeting. 2022.5.12.
2. Yamanaka T, Mizuki M, Kidana K, Yamaga R. Characteristics and prognoses of long term home care patients. Gerontological Society of America 2021 Annual Scientific Meeting, Online, 2021.11.4-7. Innovation in Aging 2021;5(S1):614-615.
3. Yamanaka T, Kidana K, Mizuki M, Matsui T. Effectiveness of Servo-Assistive Robotic Rollator (RT.2) Among Older Adults Living in the Community. Gerontological Society of America 2020 Annual Scientific Meeting, Online, 2020.11.4-7. Innovation in Aging 2020;4(Suppl 1):193.
4. Tsuchiya-Ito R, Slaug B, Sano T, Tajima M, Itoh S, Uda K, Yamanaka T, Iwarsson S. Assessing Housing Accessibility for Older Adults in Japan: A Content Validity Study. Gerontological Society of America 2020 Annual Scientific Meeting, Online, 2020.11.4-7. Innovation in Aging 2020;4(Suppl 1):108.
5. Yamanaka T, Kidana K, Osawa I, Yoneda A, Tsuji K, Yamaguchi K, Yamaguchi Y, Akishita M. Medication prescription in older people receiving home visiting services.

- The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional congress. Taipei, Taiwan, 2019.10.26.
6. Yamanaka T. Home Care Medicine Education in Japan. Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. International Workshop on Home Care Medicine. Austin, USA, 2019.11.15.
 7. Noguchi-Watanabe M, Yamamoto-Mitani N, Yamanaka T. Service delivery and inter-professional care in Japan. Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. International Workshop on Home Care Medicine. Austin, USA, 2019.11.15.
 8. Yamanaka T, Hirota Y, Furuta T, Iijima K, Akishita M: Trajectories of Quality of Life and Well-being in Elderly Home Care Patients. American Geriatrics Society 2019 Annual Scientific Meeting. Orlando, FL, USA, 2018.5.3. J Am Geriatr Soc 2018;66(Suppl2);S54.
 9. Osawa I, Yoneda A, Ishii S, Yamaguchi K, Yamaguchi Y, Tsuji K, Yamanaka T, Akishita M: Medication prescription in home visits by physicians. American Geriatrics Society 2019 Annual Scientific Meeting. Orlando, FL, USA, 2018.5.4. J Am Geriatr Soc 2018;66(Suppl2);S276.

国内学会

1. 服部ゆかり、辻彼南雄、工藤香代、山内和枝、三宅有一、山中 崇、小島太郎、秋下雅弘. 患者とかかりつけ診療所が一緒に考える「ACP プロセス」活動報告. 第3回日本在宅医療連合学会大会. 2021.11.27-28. Web. 日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集 3回:278.
2. 水木麻衣子、木棚 究、木下朋雄、石垣泰則、山中 崇. 歩行支援ロボットを導入し継続的に利用した3名の症例報告. 第3回日本在宅医療連合学会大会. 2021.11.27-28. Web. 日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集 3回:272.
3. 浜田将太、佐方信夫、岩上将夫、服部ゆかり、木棚 究、石崎達郎、田宮菜奈子、秋下雅弘、山中 崇. 在宅医療を受ける高齢者におけるポリファーマシーの実態と関連因子 全国レセプトデータを用いた横断研究. 第3回日本在宅医療連合学会大会. 2021.11.27. Web. 日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集 3回:265.
4. 山中 崇. 循環器疾患・心不全の在宅医療 薬物療法について. 第3回日本在宅医療連合学会大会. 2021.11.28. Web. 日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集 3回:242.
5. 松井敏史、瀧内愛有美、永田あかね、山中 崇、木棚 究、長島文夫. 離床アシストロボット「リショーネ Plus」の介護施設利用における動線解析を用いた検証. 第40回日本認知症学会学術集会. 2021.11.26-28. 東京. Dementia Japan (日本認知症学会誌) 2021;35(4):641.
6. 松井敏史、永田あかね、長島文夫、前野聡子、山中 崇. 通所入浴サービスでの入浴支援ロボット「TOTO バスリフト」のタイムスタディによる検証. 第40回日本

認知症学会学術集会. 2021.11.26-28. 東京. Dementia Japan (日本認知症学会誌) 2021;35(4):641.

7. 服部ゆかり、浜田将太、山中 崇、木棚 究、岩上将夫、佐方信夫、小島太郎、小川純人、秋下雅弘. 在宅医療を受ける胃瘻患者の死亡前1年間の循環器疾患関連薬の処方実態. 第63回日本老年医学会学術集会. 2021.6.11-7.4. Web. 日老医誌 2021;58(Suppl):197.
8. 矢澤 聰、田中恒任、村元啓仁、末永祐哉、山中 崇、中原 仁、大家基嗣. アドバンスケアプランニングを含む在宅緩和ケアを提供した進行性前立腺癌患者の臨床的検討. 第108回日本泌尿器科学会総会. 2020.12.22. 神戸・Web. 抄録集 870.
9. 松井敏史、吉田文裕、瀧内愛有美、永田あかね、山中 崇、木棚 究、長島文夫. 介護者の動線解析による被介護者のADLに応じた介護必要量抽出の試み. 第62回日本老年医学会学術集会. 2020.8.4-6. Web. 日老医誌 2020;57(Suppl):75-76.
10. 山中 崇. 在宅医療の現状と臨床検査への期待. POCセミナー. 第67回日本臨床検査医学会学術集会. 臨床病理 2020;68(補冊):123.
11. 矢澤聰、関茂樹、末永祐哉、久富木原 健二、金井稔、飯塚誉、山中崇、中原仁、大家基嗣. 地域完結型医療の一端を担う泌尿器科在宅医療. 第107回日本泌尿器科学会総会 2019.4.20. 名古屋.
12. 山中崇. 高齢者慢性心不全患者のマネジメント 高齢者心不全管理における総合機能評価の必要性. 第1回日本在宅医療連合学会大会 2019.7.14. 東京.
13. 山中崇. 高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン 2019年版の紹介と今後の普及について ガイドラインの活用と在宅医療に関する研究の推進. 第1回日本在宅医療連合学会大会 2019.7.15. 東京.

講演・招待講演

国外

1. Yamanaka T (Lecture): Chronic heart failure management at home. International Training Workshop of Home Care. Tai'an, China, 2019.6.18.
2. Yamanaka T (Lecture): Comprehensive Geriatric Assessment and Nutritional Management in Home Care Medicine. International Training Workshop of Home Care. Tai'an, Shandong, China, 2019.6.17.
3. Yamanaka T (Lecture): Diagnostic devices used in home medical care and medical therapeutic management at home. International Training Workshop of Home Care. Tai'an, China, 2019.6.17.
4. Yamanaka T (Lecture): Home Care Medicine in Japan. China international health care industry EXPO (Shandong) and medical care high-level summit. Jinan, China, 2019.6.16.
5. Yamanaka T (Lecture): The Role of Home Care Medicine in Aging Society. 30th Anniversary symposium of Department of Family Medicine, Asan Medical Center. Seoul, Korea, 2019.6.14.

6. Yamanaka T (Lecture): Current Status and Prospect of Home Care Medicine in Japan: Homeward Medical Services. Parallel Session1 Integrated Healthcare and Community Care. The 10th Korea Healthcare Congress. Seoul, Korea, 2019.4.4.
7. 山中 崇(Lecture)：日本在宅医療制度の理解と専門人材の養成、第1回医療の公共性強化のための国際シンポジウム：高齢化社会、在宅医療の現状と課題。韓国、ソウル、ソウル大学。2019.3.27.
8. Yamanaka T (Lecture): Home care medicine education. International Training Workshop of Home Care. 中国、山東省済南、山東大学。2018.8.19.
9. Yamanaka T (Lecture): Home-based medical care in Japan. International Training Workshop of Home Care. 中国、山東省済南、山東大学。2018.8.19.
10. Yamanaka T (Lecture): International symposium of home-based care: Delivery and payment models (Panelist). International Training Workshop of Home Care. 中国、山東省済南、山東大学。2018.8.18.

国内

1. 山中 崇. 国内の呼吸不全の在宅緩和医療の実態. 2021年度エンドオブライフ・ケアシンポジウム 呼吸不全の在宅緩和医療とACPの役割. 名古屋. Web. 2022.3.6.
2. 山中 崇. シンポジウム『ポスト/ウイズコロナにおけるリハビリのあり方』在宅医療学の立場から. シンポジウム要介護高齢者の家族による在宅リハビリ支援について. 広島・Web. 2022.3.1.
3. 山中 崇：在宅医療における循環器疾患管理. 高齢者薬物療法 Web シンポジウム. 2021.12.21.
4. 山中 崇：在宅医療と循環器診療. 第47回伊勢崎佐波地区循環器病勉強会. Web. 2021.12.7.
5. 山中 崇：臓器不全 心不全の在宅医療、在宅医療インテグレーター養成講座基礎編. Web. 2021.10.17.
6. 山中 崇：在宅患者における循環器疾患管理～在宅医と循環器医の連携～. 高齢者薬物療法 Web シンポジウム. 2021.6.9.
7. 山中 崇：臓器不全 心不全の在宅医療、在宅医療インテグレーター養成講座基礎編. 東京. 2020.11.14.
8. 木棚 究：認知症の初期症状と予防法. 東京大学医学部附属病院高齢者教室. 東京 2020.2.19.
9. 山中 崇：住み慣れた地域での生活を支えるために～在宅医療について～. 第27回金沢南糖尿病セミナー. 金沢. 2019.12.21.
10. 山中 崇：医療・介護・福祉の一体提供, 地域共生社会における在宅医療の果たす役割, 全国地域医業研究会 医療・介護経営定例セミナー. 東京. 2019.11.22.
11. 山中 崇：臓器不全 心不全の在宅医療、在宅医療インテグレーター養成講座基礎編, 東京. 2019.9.23.

12. 山中 崇：高齢者の在宅医療。東京大学医学部附属病院高齢者教室。東京。2019.3.20.
13. 木棚 究：認知症の初期症状と予防法。東京大学医学部附属病院高齢者教室。東京。2018.12.19.
14. 山中 崇：臓器不全 心不全の在宅医療。在宅医療インテグレーター養成講座基礎編。東京。2018.9.23.
15. 山中 崇：住み慣れた地域での生活を支えるために～在宅医療・不眠症治療について～。Interprofessional Café。清水。2018.9.11.
16. 山中 崇：在宅医療の展開（臨床検査との関係）。第35回臨床検査振興セミナー。東京。2018.7.20.
17. 山中 崇：心不全の在宅医療 ―生活をふまえたアプローチ、Live Symposium for “かかりつけ医” 2018。東京。2018.7.10.
18. 山中 崇：高齢者の健康と生活、ホテル花月園健康講座。箱根。2018.7.7.
19. 山中 崇：地域包括ケアにおける医師の役割、全国地域医業研究会基礎研修。東京。2018.6.8.
20. 山中 崇：在宅医療における Evidence と臨床検査、臨床検査技師による在宅医療の推進。東京。2018.4.28.

対談・座談会

1. 小池和彦、平原佐斗司、山中 崇、武藤 真祐 【在宅診療と地域医療 在宅診療の実際と可能性】在宅診療の役割と可能性 疾患管理と生活支援、今後の可能性を探る。Medical Practice 2021;38(1):6-18.
2. 山中 崇、瀬川郁夫 在宅医療における循環器疾患。臨床医のための循環器診療 2021;35:38-44.

学会開催

1. 山中 崇（大会長）、木下朋雄（副大会長）。第3回日本在宅医療連合学会大会。Web開催。2021.11.27-28。
総参加者 2,198 名、企画演題 71 セッション（特別講演 2、市民公開講座 1、シンポジウム 52、ワークショップ 2、スポンサードシンポジウム 1、Web 共催セミナー12、ハンズオンセミナー1）、一般演題 276 題、交流の企画 2（一般演題 Q&A15、Meet the Expert5）、オンデマンドプログラム 2（多職種ミニレクチャー21、在宅医療の基本技術 7）

研究助成

- 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究 C。在宅医療を受ける患者の全国的な症例登録システム構築（研究代表者：山中 崇、分担研究者：木棚 究、水木麻衣子）2020.4.1-2025.3.31.

- 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究 C. 食形態決定のための居家用流動性測定器の開発と誤嚥性肺炎予防プログラムの構築 (研究代表者: 伏見孝子, 分担研究者: 山中 崇ほか) 2021.4.1-2024.3.31.
- 令和 4 年度厚生労働科学特別研究事業. 災害時や新興感染症拡大時等における在宅医療を提供する医療機関等への支援体制についての調査研究 (研究代表者: 山中 崇, 分担研究者: 三浦久幸、山岸暁美、石垣泰則) 2022.4.1-2023.3.31.
- 日本医療研究開発機構 長寿科学研究開発事業. 呼吸不全の在宅緩和ケア技術の評価指標選定・有効性評価 (在宅医への実態調査含む) (研究代表者: 三浦久幸, 分担研究者: 山中 崇ほか) 2019.4.1.-2022.3.31.
- 厚生労働科学研究費補助金 (認知症政策研究事業). 療養場所の違いに応じた認知症者のエンドオブライフケア充実に向けての調査研究—COVID-19 流行の影響も踏まえて—(21GB1001) (研究代表者: 三浦久幸, 分担研究者: 山中 崇ほか) 2021.4.1-2024.3.31.
- 公益財団法人勇美記念財団 一般公募. 「重度アルツハイマー型認知症に対する抗認知症薬使用の実態調査」 (研究代表者: 木棚 究) 2022.3.5-2023.3.31.
- 公益財団法人勇美記念財団 一般公募. 「在宅医療の基本的価値に関する研究」 (研究代表者: 山中 崇) 2020.2.18-2023.3.31.
- 令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (厚生労働科学特別研究事業) (研究代表者: 山中 崇) 災害時における在宅療養患者の安全確保のための調査 2019.9.17-2021.3.31.
- 日本医療研究開発機構研究費補助金 ロボット介護機器開発・標準化事業 (効果測定・評価事業) 地域包括ケアシステムにおけるロボット介護機器の効果検証 (研究代表者: 松井敏史、分担研究者: 山中 崇ほか) 2018.10.12-2021.3.31.
- 長寿医療研究開発費事業 在宅医療研究プラットフォーム構築の検討 (研究代表者: 三浦久幸、分担研究者: 山中 崇ほか) 2019.4.1-2021.3.31
- 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 第 27 回ヘルスリサーチ研究助成 (国際共同研究) 要介護高齢者の残存能力を最大化する住環境評価尺度: 日本の住環境への適応 (研究代表者: 土屋瑠見子、共同研究者: 山中 崇ほか) 2018.12.1-2019.11.30.

教育活動

医学部 クリニカル・クラークシップⅡ期 地域医療学実習

2021年9月～11月 M3 (5年生)、2022年1月～3月 M4 (6年生) 合計 117名

2020年9月～11月 M3 (5年生)、2021年1月～3月 M4 (6年生) 合計 108名

2019年9月～11月 M3 (5年生)、2020年1月～3月 M4 (6年生) 合計 112名

2018年4月～6月 M3 (5年生)、9月～11月 M4 (6年生)、2019年1月～3月 M4 (6年生) 116名

診療所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所および病院の地域医療連携部門で実習を行うプログラムを作成して指導

2018年度 東京大学医学部 学生臨床実習ベスト診療科賞 3位受賞

6年(M4)で多職種が協働して取り組む 生活を支える医療としての在宅医療に特化した 「臨床・クラークシップ」地域医療学実習を実施

平成28年度から必修化

	1週目	2週目	1週目	2週目	1週目	2週目
1班	地域医療学実習					
2班	地域医療学実習					
3班			地域医療学実習			
4班			地域医療学実習			
5班					地域医療学実習	
6班					地域医療学実習	

実習施設の種類の種類	施設数
診療所・病院	53
訪問看護ステーション	16
ケアマネ・ソーシャルワーカー	11
合計	80

	月	火	水	木	金
1週目(都内)	オリエンテーション	訪問診療・外来実習			模擬ケース担当者会議 中間振り返り
2週目(柏)	訪問診療 外来実習	訪問診療・ 外来実習	訪問看護 同行実習	ケアマネ ジャーナル 病院地域連携 部門スタッフ 同行実習	最終 振り返り
	月	火	水	木	金
1週目(柏)	オリエンテーション	訪問診療・ 外来実習	訪問看護 同行実習	ケアマネ ジャーナル 病院地域連携 部門スタッフ 同行実習	模擬ケース 担当者会議 中間振り返り
2週目(都内)	訪問診療 外来実習	訪問診療・外来実習			最終 振り返り



➤ 国立大学医学部長会議ホームページ

http://www.chnmsj.jp/chiiikiiryu_torikumi_new11.html

「卒前卒後の医学教育における国立大学医学部と地域医療機関との連携」第11回

「卒前卒後の医学教育における東京大学医学部の地域医療機関との連携」

のタイトルで江頭正人教授（医学教育国際研究センター）、木村光利講師（附属病院総合研修センター）とともに寄稿（2019年2月26日掲載）。

大学院講義

1. 山中 崇：在宅医療のエビデンスと研究課題. 大学院医学共通講義Ⅸ・生殖・発達・加齢医学専攻. 2022.2.22.
2. 山中 崇：在宅医療の質. 高齢者在宅長期ケア看護学特論Ⅱ. 2021.10.21.
3. 山中 崇：在宅医療. 高齢社会総合研究学特論Ⅳ（高齢社会のケア・サポート・システム）. 2021.7.13.
4. 木棚 究：老年症候群・認知症. 高齢社会総合研究学特論Ⅳ（高齢社会のケア・サポート・システム）. 2021.6.29.
5. 山中 崇：在宅医療の質. 高齢者在宅長期ケア看護学特論Ⅱ. 2020.10.15.
6. 山中 崇：在宅医療. 高齢社会総合研究学特論Ⅳ（高齢社会のケア・サポート・システム）. 2020.6.23.
7. 山中 崇：在宅医療のエビデンスと研究課題. 医学共有講義Ⅸ 生殖発達加齢医学専攻.

2020.2.18.

8. 山中 崇：在宅医療の質. 高齢者在宅長期ケア看護学特論Ⅱ. 2019.12.12.
9. 山中 崇：在宅医療のエビデンスと研究課題. 医学共有講義Ⅸ 生殖発達加齢医学専攻. 2019.2.12.
10. 山中 崇：在宅医療の質. 高齢者在宅長期ケア看護学特論Ⅱ. 2018.10.25.

学外での講義（医学部学生）

1. 山中 崇：在宅医療. 地域医療学各論 3. 自治医科大学. 2021.7.2.
2. 山中 崇：在宅介護、在宅医療・在宅看取り. セグメント 5 加齢と老化、臨終. 東京女子医科大学. 2021.6.17.
3. 山中 崇：在宅介護、在宅医療・在宅看取り. セグメント 5 加齢と老化、臨終. 東京女子医科大学. 2020.6.18.
4. 山中 崇：臨床診断入門 在宅医療学. 国際医療福祉大学. 2020.2.4.
5. 山中 崇：在宅介護、在宅医療・在宅看取り. セグメント 5 加齢と老化、臨終. 東京女子医科大学. 2019.6.20.

臨床研修医

卒後臨床研修プログラム 在宅医療重点オプション

5ヶ所の診療所で臨床研修医（2年目）が研修を実施するプログラムを作成

臨床研究者育成プログラム

講義

1. 木棚 究：研究、これが面白い レクチャーコース（臨床研究者育成プログラム）. 2022.3.11.

研究指導

1. 木棚 究：研修医 1年目 1名、2019年度
「長期的に在宅医療を受ける患者の追跡調査」の研究に特に興味を持ち、論文の読み方や研究について指導
2. 山中 崇、木棚 究：M4（6年生）2名
「在宅医療における薬物療法の安全性に関する多施設共同後ろ向き観察研究」のデータ収集、データ解析に取り組み、2018年5月4日 American Geriatrics Society 2019 Annual Scientific Meeting でポスター発表. "Medication prescription in home visits by physicians."

社会活動

山中 崇

1. 高齢者医薬品適正使用検討会（厚生労働省） 構成員

2. 東京都足立区地域包括ケアシステム推進会議（副会長）
3. 日本在宅医療連合学会 理事、研究委員会委員長
4. 日本老年医学会 代議員